京大人社系URAの取り組みの変遷とこれから

福田将矢、一色大悟、水野良美、横江智哉、稲石奈津子、藤川二葉、宇佐美文理
（京都大学学術研究展開センター/KURA）

P18

背景

- 総合大学である京都大学は、人文社会学分野においても多様で個性的な研究の伝統を保ってきた。
- URA制度が本格導入された2010年代初頭以降、人社系に最適化された研究支援のあり方を求め、様々な取り組みがURAにより行われてきた。
- 研究大学強化促進事業（2013～2022）や第６期科学技術・イノベーション基本計画（2021）などの学術政策を踏まえつつ、人社系URAはその活動を通して「**いかなる支援によれば研究力を高めることができるのか**」という問いを持ち続けてきた。

自然科学分野と比較した人文社会科学分野の特徴

- 研究に必要な資金の額が少ない
- 業績としての「書籍」の重要度の高さ
- 英語による発信の必要性が小さい分野もある
- ファンドの種類や数が少ない
- チーム研究より個人型研究が多い
- 研究室付秘書がいない場合が多い

→ 人文社会科学分野においては、施策の検討という文脈にとどまらず、**研究力とは何であり、その支援とは何を意味するか**、という、いっそう本質的な問題としばしば結び付けられてきた。

「いかなる支援によれば研究力を高めることができるのか？」
→ 京大人社系URAが行ってきた取組と、現在における模索をまとめる。

2012　学術研究支援室（KURA）設置

2013　部局URA室設置
研究大学強化促進事業（～2022年度）

2014　人文・社会科学系研究推進フォーラム：他大学との立ち上げ

2015　人文・社会科学系研究支援プログラムの制定

2016　学術研究支援室の一元化

2017　JINSHA情報共有会第１回開催

……

2021　第6期科学技術・イノベーション基本計画
総合知の衝撃

2022　京都大学 人と社会の未来研究院の設置
研究大学強化促進事業の終了

2023　KURA、人社系部門含め一体化

人文社会科学支援タスクフォース

2014年、京大URAネットワークに立上。本部URAと部局URAの業務経験をもとに「意識の共有、支援活動の優先順位整理、効果的効率的な支援体制の構築」といった３点の柱をもとに活動。

立案

人文・社会科学系研究支援プログラム

1 資源整備・成果発信プロジェクト

人社系において重要な書籍に注目した情報発信と海外出版関係の支援。さらに冊子等での人社系研究の紹介を行う。

- **京大新刊情報ポータルサイト**の開設・運営
- **海外出版**への支援
- 人社系海外出版書籍の**オープンアクセス化**
- 人社系研究**紹介冊子**の作成
- **学内資源**プラットフォームの構築支援

2 外部資金獲得プロジェクト

研究力を資金獲得力の面で高めるべく、必要に応じた申請支援と公募情報周知、さらに大型資金に向けたチーム形成でもサポート。

- 人社系**大型外部資金**への申請支援
- **民間助成財団** 学内説明会の開催
- 公募型資金情報サイト「**鎗**」の利用促進
- **チーム形成支援**

3 研究力の可視化プロジェクト

社会に対して、数値化することが難しい人社系の研究力を示すべく、研究評価のありかたから問い直し、議論の場を形成する。

- **研究評価**に関する**調査・検討**
- 研究評価に関する**フォーラム等の開催**

人と社会の未来研究院における人社URAの活動

1 人文社会系の成果の多様な発信

従来の国際学術誌の編纂、著書の出版助成だけでなく、多様なwebメディアを活用し、人文社会科学の研究成果を発信。

「京大人社通信」
人文社会科学の「深み」を読みやすいweb エッセイの形で提供

「人社の研究室から」
URAによる研究室訪問webレポート

「雑談Podcast」
研究者へ雑談レベルのインタビューを行い、研究の舞台裏を広く発信

京大人社通信　人社の研究室から　雑談Podcast

2 文理融合・新研究分野の創成

研究者訪問による対話の場の創出により、研究者/URA提案による融合研究テーマの立案、チーム形成支援、外部資金獲得支援。

対談企画「文理の森」
文系と理系の研究者による対談企画をYouTubeにて公開

「百万遍談議」
分野を超えた学部学生の議論の場を創出

「百万遍サロン」
“雑談の組織化”により、専門を超えた研究者同士の交流の場を創出

文理の森

3 社会との連携事業

人文社会科学が社会的ニーズに応え、研究成果を社会実装するため、持続的な社会連携を支援。

社会連携インタビュー「この方に聴きました」
連携プロジェクトのパートナー（企業、官公庁等）にインタビューを行い、web レポートとして掲載

「京大人社こども学園」
子どもたちが人文社会科学の知に触れる機会を提供

シン・人社系プログラムへ向けて

1 研究力を「伝える」

ポッドキャスト、YouTube、Twitter等のさまざまな媒体で京大URAが自律的に研究成果を発信。大学を社会に開くことで、知の循環とさらなる研究力の向上を目指す。

人社系研究を発信するために、いま有効なメディアとその利用法とは？

2 研究力を「高める」

百万遍談議や百万遍サロンなどによる、研究者ニーズを汲み上げ、分野を超えた人的交流の場が継続される仕組みづくり。新しい融合研究の創成・新しい価値の創出を促進する大学風土を育む。

人社系分野において、研究する力を高める仕組みとは？

3 研究力を「問う」

本学の人社系を中心とした共同研究・融合研究の歴史調査を通じ、融合研究創生の基盤を固め、京大人社の伝統の可視化、研究推進のビジョンを検討。

社会に示すべき人社系の研究力とは？